

## 大飯3・4号の運転再開反対！

### 野田政権はフクシマ事故の国家責任を認めよ！ 全原発を止めたまま、脱原発政策を具体化せよ！

#### 5月13日(日)午後1時半から 大飯3・4号炉再稼働反対 学習会

- (1) 大飯3・4号再稼働をめぐる自治体等の動き
- (2) フクシマ事故における国の責任と「脱・原発依存」政策
- (3) 「原子力規制庁」と安全基準改定・安全審査やり直し

場 所 市民交流センターなにわ(JR環状線「芦原橋」駅すぐ前)

主 催 若狭ネット くぼ 072-939-5660



3月11日の 大阪でのデモ

フクシマ事故から1年が過ぎ、日本の原発が次々と止まり、5月5日には、すべての原発が停止状態となります。そんな中、原発再稼働が大飯3・4号炉で浮上し、4月14日には枝野通産大臣が福井県を訪問し、「新たな安全基準を満たした」として再稼働を要請しました。国としての責任を棚上げにしたまま、デタラメな安全基準で運転再開を承を迫るなど許せません。

班目原子力安全委員長は今年2月15日の国会事故調査委員会で、「今まで発行してきた安全審査指針類にいろいろな意味で瑕疵があった」と、行政的責任を認めました。しかし、国は、私たちとの3月23日の交渉でも、法律にのっとって粛々と手続きを進めたばかりであり、瑕疵はないと言い張っています。

フクシマ大事故が起こり、収束すらできないのは、「長時間の全電源喪失は考えなくてもいい」などとする安全設計審査指針類に重大な瑕疵があったからです。また、原発推進路線に沿って地震・津波を過小評価し、原発重大事故の危険を過小評価してきたことは明白です。国には福島第一原発重大事故を引き起こ

した責任があります。野田政権に国の瑕疵と責任を明確に認めさせ、全原発を止めたまま、脱原発政策の具体化を図らせねばなりません。

#### 原子力組織制度改革法案を廃案にせよ！ 脱原発のための原子力規制体制をつくれ！

今国会に上程されている原子力組織制度改革法案は「原子力規制庁」を新しく発足させるものですが、これまで通り、原子力基本法に記された「原子力の研究・開発及び利用の推進を目的」としています。これでは原発推進を阻害するような安全基準は作られません。安全審査指針類の瑕疵が生じた原因の一つはここにあります。現法案は廃案にさせ、脱原発のための原子力安全規制体制を作らしましょう。

#### 再稼働ありきの暫定的安全基準を撤回せよ！ 安全基準の全面的かつ抜本的改定を行え！

野田総理など4閣僚で決めた新たな安全基準は、電力会社に指示した緊急の津波対策を「安全基準」であ

るかのように取りつくろったにすぎません。求められている安全基準の改定とは、立地審査指針、安全設計審査指針、耐震設計審査指針など「瑕疵のある安全審査指針類」の全面的で抜本的な改定です。脱原発の視点から厳格な安全基準に改定させねばなりません。

このような改定はまた、福島第一原発重大事故の原因・経過を詳細に分析評価して初めてできるのです。

### **全原発の安全審査をやり直せ！ 改定基準に満たない原発を廃炉に！**

瑕疵のある安全審査指針類で許可された原発はすべて一旦認可を取り消すのが筋ではないでしょうか。そうでなければ、重大事故を防ぐことはできません。

たとえば、現行指針では一つの機器で事故が生じた場合(他の機器はすべて健全と仮定)に事故収束できるとしていますが、今回のように複数の機器で一斉に事故が発生するような状態は想定されていません。

また、現行の耐震設計では重要な機器さえ破壊されなければ重大事故に至らないとの想定でしたが、海水ポンプという重要でない機器が破壊されたために通常

の冷却系統が全く使えなくなり、全電源喪失と相まって重大事故へと広がったのです。

今まで動かないと評価された活断層も今回活動し、活断層評価の過小評価も暴き出されました。地震動評価もさまざまな仮定を置いて過小評価されています。

福島第一原発重大事故を全面的に総括する中で、すべての安全基準を根本から体系的に改定させねばなりません。安全審査をやり直し、改定基準に満たない原発は廃炉にすべきです。

野田政権に脱原発政策への転換を迫り、その具体化を求め、脱原発の観点から安全基準を抜本的に改定させましょう。何年かかろうと、全原発を止めたままで、安全基準の改定と安全審査のやり直しを真摯に進めるといふ政治決断を野田政権に迫りましょう。そうでなければ、「安全審査指針類の瑕疵」の国家責任をとることなどできないのですから。

5月13日(日)には、市民交流センターなにわで大飯3・4号炉の再稼働を許さないための学習会をもちます。みんなの意見交換の場にしたいと思います。参加をお願いします。

## **「放射線副読本」の撤回・回収を！**

- 放射線副読本は、被ばく量が100ミリ以下なら大丈夫ということ子どもたちに理解させようとしています。これは、大問題です。

文科省は昨年、福島県の学校で子どもが年間20ミリ被ばくすることを認めました。しかし、多くの保護者からの抗議が寄せられ、より厳しい基準に変更しました。しかし、この副読本では100ミリ以下なら安全だと言うのです。

- 文科省は、子どもを危険にさらしていることをしっかりと自覚すべきです。

この副読本は、被ばくさせられている福島・東北・関東の人々の“不安”や“批判”を押さえつけ、全国各地に避難している子どもたちや家族を“孤立”させるものとなっているのではないのでしょうか。

もう一度この副読本の問題点を整理しますと、

問題点① 福島事故にはふれないで、放射線は世の中に役立っていると主張している。

問題点② 低い線量の被ばくは、人体に影響がないと言い張っている。

18歳以下の子どもや妊婦はもとより、関係者以外の立ち入りが禁止されている「放射線管理区域」に相当する放射能汚染地域で生活する住民は約400万人にもなっている。

問題点③ 教育は偏ってはならないと言いながらこの副読本の費用は、原子力推進のお金から拠出。

問題点④ 副読本作成は、原子力を推進する組織である原子力文化振興財団。

☆☆－ 反原発新聞 409号 2012年4月号に (反原発運動全国連絡会 発行)

欄外に「放射線副読本」の撤回を求める署名にご協力を」が掲載される。－☆☆

詳しくは、若狭ネットのホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/>

# 4月14日、枝野経産大臣福井へ、 私たちは福井ネットのよびかけで福井県庁前に集合

(若狭ネット くぼ)



サヨナラ原発福井ネットワークの横断幕



枝野経産大臣に訴えるプラカード

午後1時、福井県庁周辺は、時代行列祭り、春祭り(桜満開)で、多くの人が集まっていた。

となりの中央公園では福井の人たちが、プラカードづくりをしている。私たちも「再稼働反対」「再稼働やめろ」と書く。

地元からも、京都、滋賀、大阪、兵庫、奈良、岐阜、愛知、東京からも、約300名が集まる。「3時過ぎに、枝野が県庁舎にはいる」という連絡あり、表門前にのぼり、横断幕、プラカードを持って移動。過激な言動を慎み、気を遣いながら、ハンドマイクでしゃべる。通り行く人々に訴える。

右翼の宣伝カーが、大音量で「私達も原発は反対だ、しかし、きさまら、昭和の時代に戻れというのか」と、わめく。

3時過ぎ、「枝野はもう県庁内に入っている。表門を通らないで、姑息にも、こそこそはいったようです」と、ハンドマイク報告。私たちは、横断幕、のぼりなどをおろして、城内の橋を渡り、県庁玄関前まで進む。みんな口々に、「原発反対 再稼働反対、枝野は帰れ」。ついには大合唱となる。

玄関前では「中に入れろ、入れない」で押し問答、「どうして住民の思いを聞かぬのですか」と、入れないとする人々を説得する。福井のYさん、Mさん、いさんなどが先頭に立ち、「私たちの思いを届けたい。中に代表を入れて下さい」という折衝が続く。小1時間して、私たちの要求が通り、3人が県庁内にはいることができる。大歓声と拍手。

対応したのは、県庁の総務課の片山さんで、お聞きした内容は、必ず、県知事に届けますと、確認。

「3人の主張」

- 今後、福井県原子力安全専門委員会と県議会全員協議会で再稼働をめぐる話し合いがなされるであろうが、福井県原子力安全専門委員会には、関電から買収されているメンバーがいる。その中での審議ではダメである。解任させなければならないこと。県議会全員協議会で話し合うのではダメである。誰がどんな発言をしたのか、全く分からないまま決まってしまう。県民にとって大切な重大な問題である再稼働について、きちんと県議会を開催して、公開の場で話し合うべきである。

そして、県民にきちんと説明する説明会を実施することを要請した。

- 西川県知事は、これまで、フクシマ事故での安全対策から問題ありとして、原発安全の危惧を示す県民の思いを受け止めてほしい。知事は、当初「福島原発事故は現行の安全基準で事故を起こしたのだから、福島事故を検証して、安全基準を作り、その基準の下で県内の原発の判断をすべきだ」と述べています。これをきちんとやらせなくてはならないし、新幹線予算がついたと言うことで合意してはダメです。知事としての責任は重大です。
- 「自然豊かな福井に、原発はいらない」と、訴えた。

